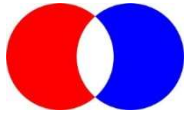


朱色



紺青

### 目次

- 1 事務局通信
- 2 会の活動報告
- 3 お知らせ
- 4 編集後記

統括幹事：後藤和晃  
事務局  
事務局：藤野孝博  
事務局



## 事務局通信 사무국 통신

事務局統括幹事 後藤和晃

### 1. 岸田前首相、引退前に韓国訪問

#### 尹大統領と“日韓の友好”前進を確認！

この9月6日(金)、岸田首相(当時は現役)は韓国・ソウルを訪問、ユン・ソンニョル大統領と会談しました。両首脳はこれまで10回以上、対話を重ね、日韓関係の改善や日米間の安全保障協力の強化に努力してきた間柄です。新しい自民党総裁の誕生を受け、一議員の立場に戻っている岸田首相としては、来年が“日韓の国交正常化60周年”という重要な年に当たるため、「強い信頼関係」を築いたと自負している尹大統領との間で「今後も日韓間の協力と友好的な交流を継続したい」として12回目の会談を申し入れたのです。尹大統領も「岸田首相と対話し、共に築いてきた成果は、私が大統領に就任以来、最も意味のあることだった」と岸田首相を歓迎し、来年の“日韓60周年”での交流の強化を確認、さらに今後、第三国で有事の発生した際にそれぞれの国民を保護するという協力覚書を締結しました。

尹大統領が就任してからの一年半の間に尹氏の粘り強い努力で、日韓の政府間の対話は前政権の時代とは比べ物にならないほど前に進んだと言えるでしょう。もちろん韓国内には慰安婦や徴用工問題などで日韓の友好の強化に水を差そうとする人々もいます。

そんな中で迎える“日韓60周年”の来年、韓国に通い続けた岸田首相に代わって、尹大統領と対話する日本人首相には10月以降、自民党の石破氏が就任することとなりました。新首相が尹大統領との間で、“日韓2000年の絆”を踏まえ、来年を友情溢れる展開に導いていくよう期待したいものです。



9月7日 中日新聞から

### 2. 2023年度の活動報告・会計報告

去年の活動の結果を報告する前に事務局より会員、協力者の皆さんに、一言、お詫びを申し上げます。それは去年の10月に会報93号を発行して以来、年度が2024年度に変わっても、総会の開催もなく、会費の納入のお願いや会報のお届けもにせず、今日に至っていることです。このような状況に至った背景には、創立から26年余りの年月を経て、当初からの会員の多くが来世

に去ったり、外出も難しくなっていることがあります。さらに事務局を支えて頂いた中核的なメンバーの人たちの中にも病死したり、重い病で自由に行動できなくなった方もいて、事務局会議の開催もままならないのが現状です。

とはいえ事務局の後藤も、藤野も、日韓の民間交流のために、日韓市民ネットの経験と人脈を今後も何とか生かしていこうと決意していますので、その点については、事務局通信3以降をよくお読みください。

## 회의 활동보고 会の活動報告



## 2023年 活動の記録

年	月	日	行 事	備 考
2023	4	7 (金)	韓国・大邱市で水崎翁追慕祭	現地顕彰会・訪問団 20人
	5	3 (祝)	講座・朝鮮半島と日本との交流史 (1) 高句麗からの渡来文化	主催・yousui 文化フォーラム 講師 西谷正史氏
	6	11 (月)	講座・朝鮮半島と日本との交流史 (2) 百済からの渡来文化	同 上 ※ 日韓市民は企画協力
	7	9 (日)	講座・朝鮮半島と日本との交流史 (3) 新羅からの渡来文化	同 上
	8	6 (日)	講座・朝鮮半島と日本との交流史 (4) 加耶からの渡来文化	同 上
	10	13 (土)	ワールドコラボ・フェスに出展	事務局・会員
	10	22 (日)	講座・世宗ハンゲルで世を変える 講師 ハンゲル博士 キム・スロン	主催・yousui 文化フォーラム ※ 日韓市民は協力

### 2023年度の活動の反省

2023年度の記録を見て頂くと、会はyousui文化フォーラムと協力し“日韓交流史講座”に注力していたことを理解して頂けるでしょう。この講座は会員の在日の資産家T氏が、「日韓両国で生きてきた自分としては、ここで財団を立ち上げ、日韓の交流史などに関わる講座を展開する“yousui文化フォーラム”を始動させたい」と事務局に申し入れてこられた事がきっかけで始まりました。事務局としては、会員の老化や減少に伴い、韓国からの学生交流団のホームステイを引き受けてくれる協力者がほとんどいなくなっている状況が一気に解消できるかも！？と考え協力することにしたのです。

講座を担当する講師には2000年の交流史を知り尽くされている日本考古学協会の元会長、西谷正さんに担当頂いたところ、連続講座には毎回100人前後もの受講者が詰めかけてきました。大講堂いっぱいの人々を見て、「この様子なら交流団のホームステイを引き受けてくれる人も5~6人はいるのでは？」と思ったものです。

ところが秋を迎えた頃、T氏が「フォーラムは回を重ね、安定してきました。もう十分自分たちで運営できるので、日韓市民ネットの助けはいりません。」と言われました。T氏は元来、東京の朝鮮大学校の卒業生で、大学の教授や事務局のメンバーとも親しい上に、名古屋の各大学で教えている韩国人女性教授たちとも人脈を持っている人でした。かなりの数の受講生が安定的に受講している上は、もう自分のメンバーだけで展開できると判断されたのでしょう。

以上のようないきさつで、2023年度は1人の協力者も会員も得ることができず会の状況はさらに悪化していきました。とはいえ、事務局としては、事務局通信の2のところでも述べたように、今後も日韓交流への努力をできる限り継続するつもり

【主催】 邑翠文化フォーラム  
【協力】 日韓市民ネットワーク・なごや

講座「朝鮮半島と日本との交流史」

【会場】 名古屋国際センター大ホール  
■名古屋駅から東へ徒歩7分  
■地下鉄桜通線 国際センター駅下車すぐ

【講師】 西谷 正 (九州大学名誉教授)  
【講師プロフィール】  
1938年、大分県生まれ。元日本考古学協会会長、海防の専門家として、九州歴史資料館館長、朝鮮半島を中心に東アジアの古代史を比較考古学的手法で「古代日本と朝鮮半島の交流史」については、最新の研究を行っている。

【参加費】 1回 1000円 (税別)  
定員120名

こうして人々は波濤を越えた!!

第1回シリーズ  
●5月3日 14:00~  
高句麗からの渡来文化  
～強大国の誇り高く～  
●6月11日 14:00~  
百済からの渡来文化  
～文化大国の栄光映えて～  
●7月9日 14:00~  
新羅からの渡来文化  
～新羅武力国家の威光～  
●8月6日 14:00~  
加耶からの渡来文化  
～次等水の神ここに！～

【お申し込み】  
WEBでのお申し込み  
名古屋国際センター大ホール国際センター  
FAXでのお申し込み  
名古屋国際センター大ホール国際センター

【問合せ】 邑翠文化フォーラム事務局 Park 090-8250-2452

です。これからの方針としては事務局通信3で述べさせていただきますので、ご理解をお願いします。

遅ればせながら前年度の会計報告を下記にてご覧ください。

## 日韓市民ネットワーク・なごや

### 2023年度(令和5年) 会計報告書

自 2023年1月1日 至 2023年12月31日

【収入の部】		【支出の部】		(単位:円)
項目	金額	項目	金額	
前期繰越金	840,073	通信費	49,076	
		印刷・コピー代	45,610	
年会費	124,000	事務用消耗品費	28,690	
25周年集い参加費	176,000	日韓交流関係費	16,400	
寄付金	180,000	ホームページ運用費	0	
助成金	0	25周年集い会場費	196,000	
受取利子	9	会場・会議費		
		協力者謝礼	16,048	
		交通費	1,400	
次年度仮受金(総会参加費)	0	手数料		
			0	
		次期繰越金	966,858	
合計	1,320,082	合計	1,320,082	

※会費内訳: 61名 124,000円(前年比+5名 +10,000円)

※次期繰越金: ¥966,858(前年比+126,785円)

内訳(一般73,785円+集い+53,000円、合計+126,785円の増加となりました。)

令和 6年 1月17日

以上の通り、令和5年度(2023年)の決算を報告いたします。

会 計 早間 敏夫 印

令和 6年 1月17日

監査の結果、正確かつ適正であることを認めます。

会計監査 伊藤 義郎 印



### 3. 会の今年度の活動方針

会発足 27 年目の今、会員の高齢化に伴い会員を主力とした連続講座や、韓国への旅行、それに韓国各地からの大学生交流団の招待（ホームステイ含む）などの実施が極めて難しくなっているのは明らかです。

そんな状況を改善するには、共通の目的を持つ複数の友好団体を早急に獲得して、連続講座、交流史紀行、交流団の招待などのうち、できることから実施していく—これしかないと事務局一同は考えました。

上記の案を実現するため、現在、努力中の二件を、ご報告します。

#### ① 目的を共有する友好団体の確保へ

事務局が まず協力を申し込んだのは日韓経済文化交流協会（会長 堀江 俊通氏）です。結成以来、まだ 10 年という若い団体でメンバーは経済界の人が多く、会員はおよそ 80 人。



協会の総会風景



堀江会長

平均年齢も私たちの 団体からはかなり若く見えます。会長の堀江さんの年齢は 80 歳を超えているものの会社を運営、ゴルフも毎週というエネルギッシュな方です。そして「日韓の市民の交流は絶対必要」という信念の持主で、この春、事務局が提案した日韓交流史紀行“懐かしの加耶・新羅を旅する”の実行を、その場で即断されました。「決めたら、すぐやろう！」ということで 5 月 16 日から 19 日までの 3 泊 4 日の旅行が始まりました。一ヶ月もないほどの間に集めたメンバーなので参加者は十数人でしたが、いずれの人も若々しく、釜山、金海、大邱、慶州などを廻って 2000 年の交流史をしっかりと学んでもらいました。特に大邱での夕食時には、岐阜出身の故水崎林太郎翁の墓を“大邱農民の恩人”として今でも守っている韓国人の人たちも同席し、大いに盛り上がりました。

今後とも、多方面で協力していければ！と思っている団体です。



加耶新羅旅行（金海にて）



大邱・水崎林太郎翁墓地で



次に協力を呼びかけたのは、私たちの会の顧問である李尚勳（イ・サンフン）さんも会員の一人である韓国人ニューカマーの集団、中部韓人会です。



韓人会（左側）との打ち合わせ

これまで会長の南相烈さん他、幹部の人たちと二回、顔合わせをし、今後の協力について話し合いました。そして協力の第一弾として、10月26日(土)と27日(日)に名古屋・栄で展開されるワールド・コラボ・フェスティバルのブース出展に力を貸してもらえることになりました。ワールド・コラボと韓人会の協力については、会報の最後のお知らせのコーナーで触れますので、後ほど、ご確認ください。

## ② 来年は日韓 国交回復 60 周年

“来年は 2000 年もの深い縁のある国、韓国に行こう！”

と広く、諸団体に呼びかけ、「テーマ紀行」を提案します

会員の皆さんは、周知の通り、当会は過去、数えきれないほどの“日韓交流史に関わるテーマ紀行”を韓国や、古代の高句麗の領地だった中国東北部（旧満州）に展開してきました。この経験の中から二つのテーマ紀行を厳選し、各地の日韓親善協会や国際交流協会などに提案したいと思います。もし、テーマ紀行に関心を示されれば、その実現を極力バックアップしますし、テーマ紀行を行うほどの時間のない団体には、少しでも関わり合いのある韓国の地域への交流訪問を勧めたいと考えています。では以下に、二つのテーマ紀行（いずれも 3泊4日の内容）を極力、簡単に紹介し、主な訪問地の写真も載せておきます。

○まず第一は、“懐かしの加耶・新羅紀行”です。この地域は日本に一番近い韓国の南部にあり、人口 350 万人の大都市釜山がある慶尚南道と人口 250 万人の大邱がある慶尚北道を合わせた地域です。この一帯には、古代、大和王朝と深い関わりを持っていた加耶諸国があり、その東側には、7 世紀後半に加耶をはじめ、百済、高句麗まで滅して朝鮮統一を果たした新羅がありました。旅行では古代以前、日本の縄文時代から縄文人と半島の人々が多彩な交流を行っていた 痕跡があることを確かめた後、過去 2000 年の間に刻まれた歴史を各地で見っていきます。古代大和王朝と深い関わりを持ち、共に高句麗や新羅と戦った一帯が秀吉の朝鮮の役では一方的に大打撃を受けた歴史も目の当たりにする

ことができます。一方、韓国の人々が国を奪われたと訴える“日帝 36 年”の時代に、大邱の農民たちによって（大邱の農民を救った恩人 水崎林太郎翁）と讃えられていた岐阜出身の人物の墓を守り続けている現地の人たちとの出会いもあります。そしてまた、この地域出身の在日の人々が名古屋や国内各地の経済を支えてきたことも知り、2000 年の深い縁を実感できる旅になると考えます。



日韓国交回復60周年記念

懐かしの加耶・新羅の面影紀行  
～人と文化、交流 2000年の大地～

日程	旅行内容	備考
初日	セントレア空港集合。空港発（15:25）—釜山着（17:00） 空港から <b>金海市</b> へ（大和王朝と特に親しかった加耶の主要国・金官加耶国の故地） 金海（泊）	この周辺出身で日本経済に貢献した在日 ・鄭煥麟氏 ・韓昌祐氏
2日目	ホテル→金海大成洞古墳群→ <b>金首露王陵</b> （金官加耶の初代王・天から亀旨峰・クジボンに下りてきた伝説）→金海博物館→※ <sub>1</sub> 咸安（ハマン）→晋州（チンジュ）城跡（文禄の役で域内にこもった平野民衆5万が犠牲に）→陝川（ハプチョン）昼食→高霊（コリョン）・池山洞古墳（44・45号墳）・大加耶博  物館→大邱（泊） <b>大邱の人々と交流</b>	日本のニニギは、クシフルノミネに下りてきた。 ※ <sub>1</sub> 咸安（ハマン）は古代の阿羅国、犬山市の友好市。
3日目	ホテル→大邱（テグ）市内・ <b>水崎林太郎墓地</b> （戦前、農業用貯水池を造り、大邱農民の恩人といわれた）→ <b>さやかの里</b> （さやかは、文禄の役の際、朝鮮軍に自ら降伏、鉄砲の技術を伝え、慶長の役の日本軍の北上を阻止） →※ <sub>1</sub> 古代新羅の都 <b>慶州（キョンジュ）</b> へ・大陵園（王墓群） →慶州博物館→※ <sub>2</sub> 仏国寺 →釜山・チャガルチ市場（韓国一の魚市場） →釜山泊まり（釜山の人々と交流）	※ <sub>1</sub> 新羅はAD57～935まで続いた王国  ※ <sub>2</sub> 新羅第一の大寺院・国宝いろいろ
4日目	ホテル→空港 金海空港→セントレア	

韓国最南部の“加耶・新羅”の故地は、日本の九州地方などと縄文・弥生の時代以来往来が目立ち、双方のDNAは近いという。

この地域を流れる洛東江流域は古代より稲作が盛んな上、陶器や製鉄の技に優れ、それらを日本に伝えてきたという。

加耶・新羅紀行の見どころ



大成洞古墳群



金首露王陵





末伊山古墳群 (2024年8月)



晋州城より (2024年8月)



晋州城義岩 (2024年8月)



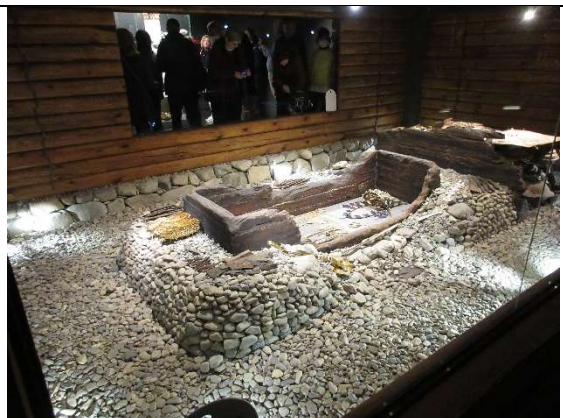
池山洞古墳群



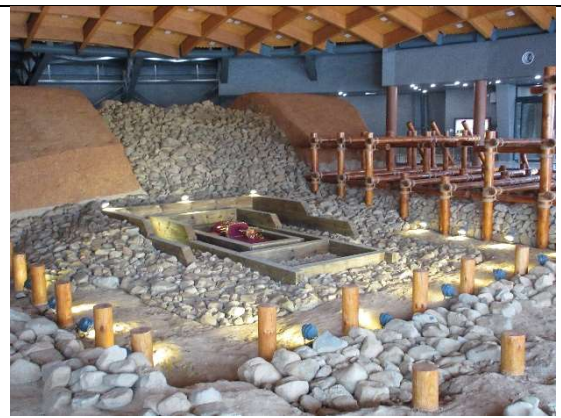
池山洞古墳 44・45号墳)



大陵苑



天馬塚内部 (改修されました 昨年3月)



金冠塚 (再発掘・展示館に改修)





チョクセム遺跡発掘館館 (昨年 3 月)



皇吾洞古墳群 (発掘調査中 昨年 3 月)



慶州博物館 (2011 年)



慶州博物館 (2011 年)



仏国寺 (2011 年)



仏国寺

○もう一つの旅は、韓国の左側、全羅道と忠清道そして首都・ソウルを訪れる旅—“懐かしの百済と仏の来た道大紀行”です。

この旅行は、古代大和朝廷の屋台骨を支えたのが、660 年に唐と新羅の攻撃で滅亡した百済の亡命官人たちだったことを忍びながらの旅です。また、滅びる前の百済は、当時の国を支えてゆく様々な情報を大和に伝えていましたが、とりわけ仏教の教えに関わる情報を手厚く送ってきていました。大和に仏教が公式に伝えられたという 552 年(一説には 538 年)以来、日本全体に寺が立ち、読経の声が絶えない有様に鑑みると、百済の仏教の史跡を見て廻るのも心に残る体験となるでしょう。



かつての百済残影紀行



から  
韓の国へ

“懐かしの百済”と“仏の来た道”大紀行

日程	旅行内容	備考
初日	セントレア空港集合。空港発（9:15）—仁川着（11:30） 空港より列車で光州（クァンジュ）駅→バスで法聖浦（ポプソンポ）へ （384年インド僧が上陸、仏教を伝えたという伝説の地） →仏甲寺（伝説の寺）→光州（泊）※ <sub>1</sub>	※ <sub>1</sub> 全羅道は芸能のふるさと 夕食時、アリラン・パンソリを聞く
2日目	ホテル→光州市内・※ <sub>1</sub> 月桂洞古墳（古代日本独自の前方後円墳・栄山江流域に多数）→益山（イクサン）・弥勒寺跡（百済仏教の栄華の後）→公州（コンジュ）山城（475年から百済の王宮）展望のみ→山城に近い宋山里古墳群・※ <sub>2</sub> 武寧王陵（九州の加唐島で生誕）→扶余（プヨ）（泊）	※ <sub>1</sub> この地方と古代九州との親しい関係。 ※ <sub>2</sub> 大和の継体天皇と親しい仲
3日目	ホテル→※ <sub>1</sub> 扶蘇山城（538年からの百済王城）外観のみ→定林寺跡・五層石塔（唐の勝利宣言の文字）→白馬江・クドゥレ港⇒船で※ <sub>2</sub> 阜蘭寺（コランサ）往復（見上げる落花岩に三千宮女の記憶）→国立扶余博物館（半跏思惟象・金銅大香炉）・・・※ <sub>3</sub> 五楽師演奏 →瑞山・磨崖三尊仏→ソウル（泊）	※ <sub>1</sub> 663年唐に破れる ※ <sub>2</sub> 日本初の尼僧留学生 ※ <sub>3</sub> 博物館内もしくはレストラン
4日目	ホテル→※ <sub>1</sub> 景福宮（一部のみ）→曹溪寺（韓国の仏教最大宗派の本山）→許俊（ホジュン）博物館（朝鮮時代の名医で東医宝金監を完成） →仁川空港へ 仁川空港発（19:05）→セントレア（21:05）	※ <sub>1</sub> 朝鮮時代の王宮

古代の“仏の来た道”は、そのまま“古代百済の盛衰史”に重なります。

百済が663年（白村江の斗い）に滅亡した後、王族、文官、武官、僧など多数の人々が日本に亡命、大和王朝の核心部分を支えました。



法聖浦



法聖浦



月桂洞古墳



弥勒寺石塔（修復終了・博物館も充実）



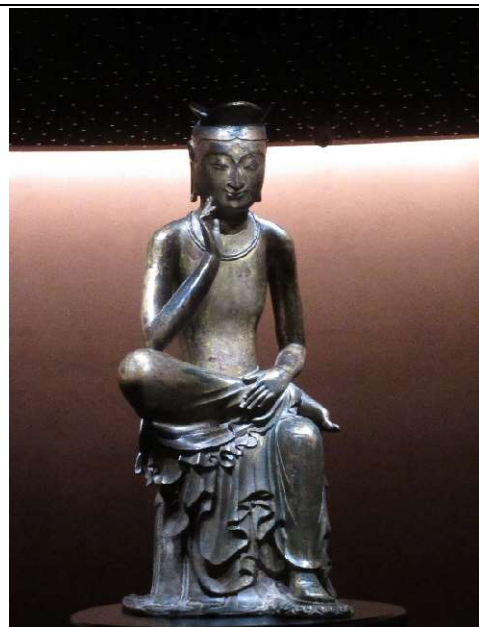
武寧王陵（資料館）



定林寺五層石塔



定林寺石塔



半跏思惟像





扶蘇山



瑞山磨崖仏 (2023年撮影)



景福宮



許俊博物館

## 2 お知らせ

### (1) ワールドコラボフェスタに出展します

～ 発見！ 体験！ 世界大交流祭 ～

事務局 藤野孝博

WCF (ワールド・コラボ・フェスタ) 2024 は今年 21 回を迎えます。中部地域の国際交流・国際協力・多文化共生・SDGs にかかわる市民、NGO、NPO、企業、行政が持続可能な社会実現のため、協力して「学び、考え、行動する場」を作り上げます。昨年の入場者数は約 56,000 人。私たちのブースにもたくさんの方が訪れ、日韓の人的交流、文化理解等について熱い意見が交わされました。

今年の開催日時は、2024年10月26日(土) 27日(日) 10:00~17:00

会場； オアシス 21 銀の広場 (名古屋市東区東桜一丁目 11-1)

詳細は 公式ウェブサイト <http://www.world-collabo.jp/>

私たちの今年のブースの柱は四つ。①は、会の紹介と会員募集。②は、韓国の国字「ハングル」が韓国の文字であることは多くの日本人もよく知るようになりました。さて、「ハングル」の元々の意味は？ ③は、ハングルで自分の名前を書いてネームカードを作ろうコーナーです。昨年は行列ができるほどの人気でした。今年も韓国からのニューカマーの方に協力してもらいます。④は、ちょっとディープな韓国紀行紹介で、日本と韓国の交流の現地を訪ねましょう。1) 大邱広域市の「スソンモ」は、市民に大人気の公園です。97年前日本人水崎林太郎が灌漑設備として作った池です。湖畔のお墓では今も毎年日韓の人々により追慕祭が開かれています。2) 同じく大邱市友鹿里には、豊臣秀吉の侵略戦争に従軍したが、この戦争には「大義」がないと朝鮮軍の側に立って



戦った「沙也加」(金忠善)の子孫が住んでいます。友鹿里の韓日記念館では、「沙也加」の事績を学ぶことができます。3) 忠清南道・大田広域市は京釜鉄道の要所として鉄道の建設、維持管理に関わる日本人が多く居住していた。その日本人官舎がいまも残っています。また、大田近代歴史館では当時の大田が日本人移住者の増加とともに都市として発展していく様子を知ることができます。

4) 2千年の歴史の中で、日韓の交流を再確認する三泊四日の旅程表の紹介。\*「懐かしの百済」と「仏の来た道」～ \*「加耶・新羅」～人と文化、交流2千年の大地～

2023年4月の来日韓国観光客数は46万7千人。訪韓日本人観光客は12万8千人。いずれも国別外国人観光客の中では、第一位です。コロナで落ち込んだ数値は確実に回復しています。私たちのブースで新しい学びや発見があることを期待しながら、皆様のお越しをお待ちしています。어서 오세요. 우리 모두 파이팅!

## (2) ハガキを同封しますので、アンケートにお答えください!

アンケートを実施する理由は三つあります。

一つ目は高齢化でそろそろ会員を止めようと思っている方には、率直に意思表示して頂こうということですが。

事務局の後藤も(会発足から27年目なので)なんと84歳という高齢になりました。周辺の同年配の人々が「あれも止めた。これも止めた!」と嘆くのをしばしば聞いています。当然、会員でも会の活動(講座・旅行・交流団のホームステイ)に参加するのは難しくなったな・・・と感じている方々もおいででしょう。一方、「自分は高齢化で確かに講座や旅行への参加は厳しくなったけれど、学生交流団の招待やホームステイは、両国の将来のためには継続した方がいい。だから、そうした際には、少しばかりの寄付は考えるよ」という方もおられるかもしれません。

いずれにしても、限界を感じている方には退会の表明をして頂こうと思います。

二つ目の理由は、私たちの会は日韓60周年の来年には、交流2000年の絆をとことん確認できる二件のテーマ紀行を実施するつもりです。いずれか(もしくは双方でも)関心を持たれた方は、その旨お知らせくだされば、(タイミングが合えば)実りある交流史紀行に同行できるかもしれません。来年の紀行は、同行しての解説だけでなく、古代からの韓(から)の調べ、つまり十二絃の加耶琴や笛の音、そしてパンソリという民衆の心を揺さぶってきた謡なども聞いて頂くつもりです。さらに日本との絆を知り、私たちに心を開いている地元の人たちとの交流の場も設ける予定です。関心のある方々は、旅行名をお知らせください!

三つ目は、会員の高齢化に伴い、韓国の学生訪問団のホームステイを引き受けて頂ける家庭が激減しているので、「自分、もしくは、友人や知人の家で2~3泊なら面倒見よう!」という方が、おいでの際は、ぜひ意思表示をお願いします。私たちの会は、過去15回ほど韓国各地の大学生交流団を名古屋に迎え、奈良一泊旅行のプレゼントをした後、3泊4日のホームステイを提供してきました。その積み重ねの中で私たちは、交流団の学生たちが彼らの胸の奥にあった反日感情を和らげ、日本人や日本の文化への関心を示すようになるのを見てきました。学生交流団の招待、これこそが民間交流の成果が一番上がる行為ではないかと事務局では考えており、いずれ再開したいと考えています。

### 【編集後記】

ここ数年、東アジアの民主主義国である日本、韓国、台湾は、核戦力を持つ共産国家、ロシア、中国、そして北朝鮮に著しく警戒感を高めてきました。

三国のうちロシアは、すでに隣国のウクライナに侵攻、ウクライナ国民の命を日々、奪い続けています。中国も、また自らの領土とする台湾に近々、実力行使にでるのでは・・・との見方も高まりつつあります。また、北朝鮮は、より強力な核武装を!と狂奔しています。こんな時、日本の舵取りをまかされた石破新首相が、この難局にどう立ち向かい、東アジアの融和に力を振るうか、大いに期待するものです。



絵 池貴己子さん